



山形市での公演を前に「アリアリ」について語る朴貞子さん＝山形市内のホテルで

話題を呼ぶ「舞踊詩劇」

韓国の農村を舞台に、厳しい自然の中で生きる人間の姿を描いた舞踊詩劇「アリアリ」を朴貞子韓国舞踊団が二十四日、県内では初めて山形市の県民会館で公演する。「アリアリ」は、一九九四年の文化庁芸術祭に、在日外国人主宰団体として初めて参加し話題を呼んだ作品だ。歌、踊り、芝居をテンポよく織り交せて、祖先への感謝と次世代への愛を描いている。公演を控えた二十三日、朴さんに話を聞いた。

朴貞子さんに話を聞く きょう山形市で初公演

「いよいよ山形で初公演ですね。」

「団員や知人に山形出身の人が多くて、以前から山形」

「人間が一生懸命生きる姿は 民族や国籍超えどこも同じ」

「韓国、と言った歴史」

「韓国舞踊ということに偏見を受けることはありますね。」

「昔ほどではありません。私が韓国舞踊を始めたころは、日本でこんなふうに韓国舞踊の公演ができるなんて想像できませんでした。それに、団員の多くが日本人なんです。時代が変わってきたのを感じます。これからも、いい舞台を重ねたい。そして、もっと時代を変えていきたいです。」

「でやりたいと思っただけに、初めての場所だけに、どんな客層が来てくれるのか、どうPRしたらいいのか分からないまま、手探りで準備してきたので感無量です。」

「韓国の農村が舞台で、全編を通して韓国の昔の農村が舞台です。昔、農業に使った道具などは、日本も韓国もほとんど一緒なんです。山形は昔から農業の盛んなお土地柄だから、特に年配の方には懐かしいような場面がいっぱい出てきますよ。そういう意味で親近感を持ってもらえるような気がします。」

「韓国、と言った歴史、そこには全く違う韓国の文化も表現されていますね。」

「公演は山形市七日町三丁目の県民会館で、午後四時」

「当日券三千円。」